



No. 41

3/31.2005

Moriya International Friendship Association

MIFA NEWS

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1
電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/mifa>

ラオス大使講演会

11月14日、ログハウスで「大使講演会」が開催されました。

2001年11月にMIFA主催の「ラオス・デー in 守谷」を開催したり、2003年、2004年と「JICA草の根技術協力事業地域提案型研修」でラオス・ルアンプラバンから青少年指導者を受け入れました。

このようにラオスと守谷は非常に近い関係にあることから、ラオス大使スックタポーン・ケオラ氏が快く講師を引き受けてくださいました。その後、氏はアセアンの会議で急遽帰国されることになり、代わって参事官のスーチャイ・ピラティヴォン氏が、ラオスの歴史から経済まで幅広く講演してくださいました。

講演会後の交流会ではいろいろな



講演するラオス大使参事官のスーチャイ・ピラティヴォン氏

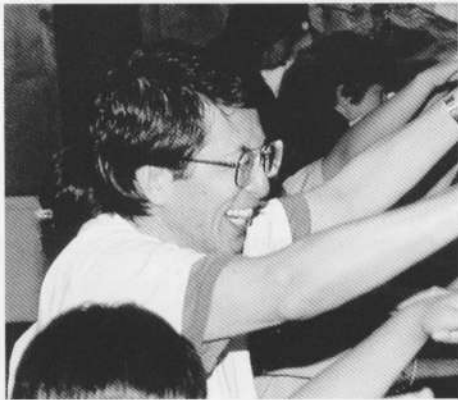


交流会でラオス舞踊を踊る参加者の皆さん

質問が飛び交い、最後はラオスの歌に合わせて皆で踊り、参事官からも「今までにこんなに心地よい講演会はなかった」と喜ばれたことは、ラオスの民族衣装を着て歓迎の意を少しでも表したいと頑張った委員たちには何よりのねぎらいの言葉でした。

ただ、講演会だけで終わるのではなく、交流会を設けることにより、直接いろいろな質問をし、その国をより理解し、さらに親睦を深めていくことが、「世界を知るシリーズ・大使講演会」の特徴だと思います。

今回の講演会も、参加された方々にとって、ラオスがさらに身近な国になったことでしょう。



昨年行われたMIFAフェスタで

ルーマニアから

宮川代表は、独立行政法人国際協力機構JICA筑波に在任中、共催したMIFAフェスタのJICA側責任者としてさまざまな便宜を図っていただくなど、MIFAにとって欠かせない人材でしたが、1月から、ルーマニア・ブカレストに活躍の場を移されています。その宮川代表から「ルーマニア便り」が届きました。

澄み切った青い空に迎えられてルーマニアの生活が始まりました。1月のブカレストはマイナス15度にもなると聞き、さぞかし厳しい寒さではと覚悟して来ましたが、ブカレストに近づく機上から見た大地は、想像していた白のイメージではなく茶色で、遥か望む山脈の冠雪が雄大でした。地上に降り立つと、思ったほどの寒さではなく、今年の冬は今のところ暖冬と聞いて、ちょっと拍子抜けしたものです。

ブカレストの印象は、これまで赴任した国々とはずいぶん違うような、似たところもあるような、まだよく掴めていない状況です。まだ喧嘩に会っていないせいか、町や人々の佇まいは全体的に穏やかという感じを受けます。通勤は、歩道のデコボコに足を取られないよう、また、背後から忍び寄る野犬にも気を配りつつ歩かなければならないため、周囲

の風景を観察する余裕がありません。やはり、車優先社会のようで、もの凄いスピードで走り抜ける車が多い一方、道路を横断する際、止まってくれる車があると、ほっとします。

(ルーマニア協力隊機関誌への寄稿文より)

このように、ルーマニアの生活が始まりました。早いもので当地にきてもう1か月になりますが、公私にわたり勉強中です。到着時は暖冬でしたが、徐々に寒さが増してきて、最近ではブカレスト市内にも雪が降るようになりました。偽警官や野犬に要注意ですが、治安は比較的良いようで、物質的に特に困ることもなさそうです。住居はまだ決まっておらず、落ち着くまでにはもう少し時間がかかりそうです。

JICAルーマニア事務所代表・宮川文男

筑波大留学生
ホームステイ

楽しみました 投扇興

筑波大留学生ホームステイ受け入れを12月4～5日に実施しました。受け入れ家庭は8家庭で、留学生は韓国、ラオス、中国、フランス、エジプトの5か国から9人が来られました。

土曜日は北守谷公民館で対面式後、留学生に着物の着付け体験をしていただき、ホストファミリーとともに和やかに投扇興を楽しみました。女性はあでやかな振袖、男性はリリしい羽織袴姿。貴重な体験をととても喜んでおられました。夕方からは、イヤーエンドパーティーにも参加し、JICA研修員、守谷在住外国人、MIFA会員と歓談し、友好を深めました。日曜日は各家庭で、県立自然博物館訪問などそれぞれが自由に過ごされました。

留学生は、普段寮生活をしていて、一般家庭を訪問する機会が少ないので、日本滞在中の良い思い出になられたことと思います。



一年の締めくくり

イヤ-エンドパーティー

12月4日、一年の締めくくりでもある恒例のイヤ-エンドパーティーが行われました。

当日は、悪天候の予報に懸念していましたが、雨もパーティーを見守ってくれたかのように、終了後にやさしく降り出し、天も味方してくれたのだと思いました。皆さんの協力のもと、おかげさまで、参加者134人、MIFAの年末を飾るのに相応しい盛況となりました。

そこかしこでChattingを楽しんでいる姿は、まさにInternationalに相応しいパーティーでした。人種、言葉、宗教の異なる20数カ国の人たちが一堂に会し、目と目が合った時の微笑み返しは、ペチカの暖のように、心を暖かくさせてくれました。オープニングの音楽家



参加した人たちは心から楽しんでいました

の歌、お楽しみ抽選会の景品を手にした時の喜び、プロジェクタースクリーンを使っての外国人のお国での年末・年始の過ごし方の紹介も好評でした。

参加者は申し込み人数をかなりオーバーしてしまいましたが、予約なしの当日参加者をどのように対応してよいか、お帰りいただくわけにもいかずどうすればよいかと思案しています。

MIFAサロン

韓国文化を知る



左=韓国文化を紹介してくれた金さん
右=キムチ作りを教えてくれた李さん

2月20日、ログハウスでMIFAサロンが開催されました。

韓国のお正月、結婚式、教育事情など、金さんにお話していただきました。

今、注目を集めている韓国です、参加者の

興味も深く、多くの方から次々に質問が挙げられました。

その後、李さんによるキムチ作りの実演。後半は、キムチと韓国料理チャブチェの試食。さらに韓国が身近に感じられるサロンとなりました。



県民まつり「国際交流ひろば」

高円宮妃 MIFAでお買い物



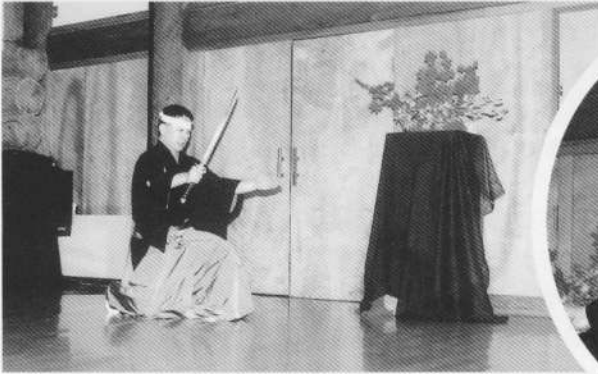
平成16年度「国際交流ひろば」が茨城県庁で開催され、MIFAは、活動のPRとラオスの子どもたちへの資金援助のため、10月23日、24日の二日間参加しました。

「ひろば」では、国際色豊かな出し物や売店がひしめき、楽しい空間をつくっていました。MIFAのコーナーでは、ラオスで手に入れた織物を販売していました。そのときタイミング良く高円宮妃殿下が立ち寄られ、織物を手になさり「綺麗ですね」と言われ、購入していただきました。

一同大変な喜びで、一日大いに盛り上がりました。

第12回MIFAコンサート ワークショップ「能」

幽玄の世界へ ようこそ



11年目を迎える「MIFAコンサート」。今回は、観阿弥、世阿弥父子によって幽玄美の世界に到達したといわれる、日本伝統芸能の「能楽」を企画しました。会場が洋風建築のログハウスだったので、ミスマッチか、という心配もありましたがそのようなことはなく、能楽師・梅村まさよし氏（ワキ方宝生流）が、ワーク



ショップを交えながら「経政」「紅葉狩」「高砂」を披露されました。外国の方も数人参加され、とても和やかな雰囲気での公演となりました。

公演ご案内の扱いは小さかったのですが、すぐに定員の100人となり、日本の伝統芸能への関心の高さには驚かされました。

年一回のコンサートですが、これからも時間をかけ、皆さんに喜ばれる企画をしていきたいと考えています。



日本語講座

2004年度に10周年を迎えた日本語講座委員会では、慶応大学教授・市川保子氏を講師にお迎えし、「ボランティア講師養成講座」を開講、37人の新しい講師が誕生しました。

また、「先導的施策支援事業等助成金」を宝くじ協会からいただき運営のためのパーソナルコンピュータを購入、記念冊子「10年のあゆみ」を作成。さらに長年講師としてご活躍の鈴木真木子さんの二科展入賞作品を元にポスターを作製中です。

受講生18カ国58人、ボランティア講師54人の「第30回外国人のための日本語講座」で日本語を学ばれた柳さんから、うれしいニュースが届きました。

日本語1級合格の感激

柳 若菲 (Liu Ruofei)

日本に来てから2年半経ち、昨年の12月5日に、自分の日本語能力を測る1級試験を受けました。試験の準備について、語彙をあまり勉強していなかったので心配でしたが、その代わりにヒアリングと読解の方に自信を持っていました。

1級合格ラインは 400満点で280点ですが、試験結果

の通知は2月8日に来ました。その日はちょうど中国では旧暦の大晦日でした。多くの友達が集まって旧正月に向け、会社の寮でパーティーを行いました。



会社から戻って、寮に入った瞬間、友達の一人の荊枚 (Jing Mei) が、「早く見て、早く見て、みんな合格したから、お祝いパーティーをやりましょう！」と言いながら、何かを私の前に出しました。手に取って見ると、それは、「成績通知表」でした。彼女ら友達は合格したのです。私のはどう？

「もし落ちれば、どうしよう」と思いながら、心がすごくドキドキして、ふるえる手で、皆の前で私の成績通知表を徐々に開きました。そっと覗いてみると、点数が目飛び込んできました。「やった！合格した！！」と、私は思わず大声を出してしまいました。

今、その時のことを思い出すと、ドラマチックなシーンが浮かびます。一言で言うと、<実力+Lucky>でした。忘れることのできない感激の体験でした。日本語講座で教えてくださった先生たちのおかげです。ありがとうございました。